

ほんげみょうしゅう  
本化妙宗 (法華經・本門)



(小冊子 18)

# 『日本の国を祈る』 (コロナウイルス)



いつてんしかいかいきみょうほう  
一天四海皆歸妙法





2019年12月 中国武漢で始まった「新型コロナウイルス」は  
2023年早、四年目を迎えるに至りました。何度も変異を繰り返え  
す中、今だ緊張と不安の毎日を送る日々が続いております。

「日本で始めての疫病」は、天然痘と言う病気ですが、天然痘ウ  
イルスによる感染症です。時期としては飛鳥時代の六世紀頃仏教  
伝来と同じ頃、その頃は大陸の人との往来が有りウイルスが持ち  
込まれたとも言われております。

この天然痘の症状については「日本書紀」で始めて記録されて  
おります。奈良時代には天平の疫病大流行とあります。735〜737  
年の二年間にわたり天然痘（疱瘡）が流行し、当時の総人口25〜  
35%に当たる100万〜150万人が感染により死亡したとされ  
ています。この当時 聖武天皇の時代、疫病の蔓延のみならず天候不  
順による飢餓・大地震などに深く悩まれこれらの平癒の為に  
東大寺の大仏が建立された事はだれもが周知の事実です。その後も  
天然痘は何度もはりましたが、江戸時代の末期天然痘ワクチンと  
いう種痘により1800年根絶宣言が出されました。今、新型コロナに  
対し化学のめざましい進歩により、開発から一年という驚異的スピ  
ードでワクチンが製品化され世界中で使用されています。

歴史は繰り返されると言いますが、今から800年前の鎌倉時代・1256年（康元元年）赤斑瘡（はしかウイルスによる感染症）又、赤痢等・京都・鎌倉に流行



1259年（正元元年）大飢饉・大疫病流行

1260年（正元二年）四季にわたって大疫（多くの人に疫病が広がった）止まずと記されています。この時代天変・地変・疫病等が繰り返されてきました。

これらの現象について**日蓮聖人は経文を通して解説されました。** 物事が現象（結果）として顕われる時には、必ずその元となる原因が在るはずです。日蓮聖人はその災禍と現実を照らし合わせ人々に警鐘を鳴らす予言をされました。

立正安国論に云く。



『世皆正に背き人悉く悪に帰す。故に善神は国を捨てて相ひ去り、聖人は所を辞して還らず。是れを以て魔来り鬼来って災起り難起る。云わずんばあるべからず。恐れずんばあるべからず。』

現代解釈

人々が正法たる「法華経」に背いて、邪法邪師を信ずるから善神は国を捨てて去り悪鬼が入り変わって災難が国を覆う。すべからなく法華経の正法正義に帰命せよ。その信仰を改めなければ災難の根源を除く事は出来ない。

疫病とは、流行病の事で人から人に伝染し移っていきます。

この疫病を法華経では、天台大師摩訶止観第八に「鬼神得便の故に悩む」と説かれてあり、鬼神の便りを得る事により病む。つまり、(細菌・ウイルス)が身体に入り感染し病気になる。「鬼も亦濫りにひとを病ましめず。まことに人、種々の事を邪念するに由るか故に」

(濫りに)・・・やみくもに。(邪)・・・道理から外れている、

つまり、正しくない道理に適っていない事。邪まな考えをしますと人間の血液が酸性になり、そうなるとばい菌に取りつかれ易くなる。

### 立正安国論に云く。

「傍を好んで正を忘れんに、善神怒を成さざらん哉。圓を捨てて偏を好まんに、悪鬼便を得ざらん哉。」



### 現代解釈

傍である念仏を好んで、正の法華経を忘れている、それ故に法華経を擁護する善神は怒っている。さらに圓滿なる法華経を捨てて、偏なるものを好む故に悪鬼が災いをする。

我が国は今宗教を必要とし、求めているにも係わらず、世の中が災厄におおわれています。

佛教の説き主であるお釈迦様の真意に背いて「法華経」を無視して未顕真実(未だ真実が顕わされていない)の方便の教えに依っているからです。「法華経」迄の佛法は全て佛の本意を失ったものです。



「法華経」に依らなければ「成佛」も出来ないし世も救われません。

人が生きて生活をするとは、どう言う事なのでしょうか？

人間は一人ですべて生きてゆく事は出来ません。その一人ひとりに過去の歴史（時の流れ）が有り未来につながって行きます。それと同時に家族・社会・国家（自分を取りまく環境）の中で生きているものなのです。

2021年十月、眞鍋淑郎先生がノーベル物理学賞を受賞されました。

この研究の結果として大気と海洋の気候は共に一つのものであり、人間の行動の影響が地球温暖化を進めて来たことが明確化されました。と言うことは、私達は自分を取りまく環境を如何にして成佛させるかが問われる事になります。

今回の新型コロナウイルスというパンデミック（人獣・共通感染症）は私達人間に色々な意味で考える機会を与えてくれました。

私達が目指すは「立正安国」という正法真理に依る安国即ち平和国土の建設です。

立正安国論に云く。



「汝早く信仰の寸心を改めて、速やかに実乗の一善に帰せよ。然ば則ち三界は皆佛國也、佛國其衰へんや。十方は悉く寶土也、寶土何ぞ壊れんや。國に衰微なく、土に破壊なくんば、身は是れ安全にして、心は是れ禅定ならん。」

## 現代解釈

信仰に対する考えを改め、速すみやかに実乗である法華經に帰依きえしなさい。そうすれば我々の住む三界さんがい（欲界・色界・無色界）は佛國となす。そして世界全体が佛國、常寂光土永遠にして安穩なる國土となる。それ故に國・國土は衰える事もなく破壊はかいする事もない。身は安全にして、心の安心あんじんが保たれる。



## 「南無妙法蓮華經」

合掌

大阪府八尾市服部川933 天龍山の谷 安國寺

電話 (072)941-8201

毎月第三日曜日に、法華經の法話会を行っています。

聴聞は、どなたでも ご参加下さい。

<http://www.eonet.ne.jp/~renshou-douju/index.html>

パワースポット「一塔合安 妙宗靈廟」で検索お願い

(本化妙宗 安國寺 知恩報恩推進委員会)